

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 特別支援教育 第154号

- 幼, 小, 中, 高, 特別支援学校対象 -

平成21年5月発行

### 特別な教育的支援の必要な子どもが 落ち着いて取り組める教室の環境づくり

現在, 通常の学級に在籍する学習面や行動面, 対人関係などで気になる幼児児童生徒に対して, 学級担任による指導や配慮がなされつつある。平成20年10月に実施した当教育センターの調査によると, 呼名や視線を合わせるなどの注意喚起, 簡潔な指示やキーワードの明確化などの言語情報の整理については, 具体的な配慮としてよく取り組まれていた。

一方, 聴覚情報処理の苦手さを補うための視覚情報の提示, 混乱をきたす周囲の刺激の除去の配慮などに関しては, 取組が進んでいないという結果であった。

特別な教育的支援の必要な幼児児童生徒は, 周囲の環境からの情報の取り込みや処理の苦手さから, 学習面や行動面で困難な状況におかれる場合が多い。そこで本稿では, これらの困難さを軽減し, 特別な教育的支援の必要な幼児児童生徒が, 学習や生活に落ち着いて取り組めるようにするための教室の環境づくりについて述べる。

#### 1 教室環境とは

教室は, 幼児児童生徒が学校(園)での大半の時間を過ごす場であり, 集団で過ごす生活の場, 学習の場, 相互のふれあいの

場などの機能を有する。これらの機能がよりよく発揮されるために, 教室環境をどのようにつくり上げるかは重要な要素である。

具体的には, 照明や採光, 換気, 整理整頓などの健康・安全に関する視点, 黒板や掲示板, 机の配置, 参考図書等の整備などの学習活動の円滑化に関する視点, 活動を振り返る掲示や整理整頓・環境美化などの情操や人間関係づくりの視点から教室の環境を検討していくことが必要となる。

#### 2 幼児児童生徒の困難さと教室環境

上述した教室の機能を発揮するために, 教室には様々な掲示物や言葉での指示・説明, 場の設定などが行われており, 視覚的・聴覚的な情報を基に教室環境がつけられている。しかし現状では, これらの情報を提示するに当たって, 個の認知スタイルや情報処理の特性等に関する配慮が十分なされていないとは言い難い。

「困難さがある」という障害状況は, 周囲の環境との関係において生じるものである。つまり, 教室環境の不要な刺激や情報過多による混乱, 適切な情報の不備などにより, 学習や活動に適切に対応することが

難しい状況に陥っているという理解が大切である。

特別な教育的支援の必要な幼児児童生徒の困難さは、その背景として次のような要因が指摘される。このような特性等を踏まえた環境づくりを行うことが重要である。

- ・ 提示された視覚情報や聴覚情報を記憶しておくことの苦手さ
- ・ 提示された情報の内容理解の苦手さ
- ・ 様々な情報や刺激から、必要な情報を取捨選択することの難しさ
- ・ 情報を組み合わせたり、順序立てたりすることの苦手さ
- ・ 目的を遂行するための行動や手順、時間や量的な見通しをもつことの苦手さ
- ・ 課題解決のための具体的な方法の未獲得
- ・ 自分の行動をモニタリングすることの苦手さ
- ・ ある特定の刺激に対する過敏さ など

### 3 困難さを軽減する教室の環境づくりの基本的な考え方

#### (1) 刺激の調整と情報提供の在り方

##### ア 視覚・聴覚刺激の調整

###### 視覚・聴覚刺激のチェック項目例

- ・ 教室内の明るさはどうか。
- ・ 蛍光灯のちらつきはないか。
- ・ 揺れたり、動いたりする物はないか。
- ・ 屋外の風景や廊下の人の動きは気にならないか。
- ・ 掲示物や物品が整理されずに、不要な視覚刺激になっている物はないか。
- ・ 時計やスピーカーの音はどうか。
- ・ 机やいすのがたつき音はないか。など

###### 配慮例

- ・ カーテンや布で隠す。
- ・ 不透明フィルムをはる。
- ・ 片付ける。
- ・ 動かないように固定する。
- ・ 机やいすの脚に消音の工夫をする。
- ・ 無音の物に取り替える。
- ・ 吸音設備等を工夫する。 など

特定の刺激への過敏さや周囲のいろいろな刺激への注意転導性のある幼児児童生徒に対しては、上記のように教

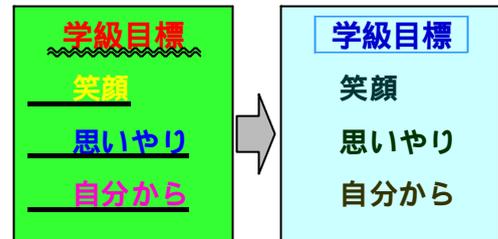
室内の刺激をチェックし、調整していくことが大切である。

#### イ 視覚・聴覚情報の提示

##### (ア) 情報の明瞭性

情報は、背景となる周囲の刺激から区別され、図として認識しやすくしたり、内容を簡潔にして把握しやすくしたりして明りょう性を確保する。

例えば、掲示物や設営物については、幼児児童生徒が必要な情報を認識しやすいように、配色やコントラストなどを考慮することが考えられる(図1)。



- ・ 必要な情報が見えやすい、統一感のある落ち着いた配色にする。
- ・ 色の明度差により、文字と背景のコントラストをはっきりさせる。
- ・ 文字の大きさや配置を整える。
- ・ 適度な空間を設ける。 など

図1 掲示物の工夫例

また、聴覚情報に関しては、明りょうな音声(音響)や音量であることを確認するとともに、話し手の不要な言葉の除去や、聞く態勢づくりに配慮することも必要である。

##### (イ) 情報の具体性

提供する情報は、なるべく簡潔なものであることが重要であるが、文字や音声による情報だけでなく、絵図等の活用や具体物の提示などによる視覚化を図り、記憶や内容理解の困難さを支

援することも大切である。その際、キーワードや要点をまとめて内容を精選したり、情報を階層化し、重要な情報をカードや色分けして提示したりすることも必要である(図2)。

**そうじのじゅんばん**

- **つくえをはこぶ**  
・いすはつくえの上に  
・ふたりでもって
- **ほうきではく**  
・まっすぐに  
・さいごはとめて
- **ぞうきんでふく**  
・よくしぼる  
・まえからじゅんばん
- **つくえをはこぶ**  
・ふたりでもって  
・しるしにきちんと
- **かたづける**  
・ぞうきんをあらう  
・もとのばしょに

きれいになりました

図2 手順表(例)

また、これまでの学習内容や活動を想起したり、手順を理解したりして、自分で確かめながら活動できるように、下記のような手順や方法、学習の手掛かりとなる情報を提示しておくことも有効である。

- 学業指導に関すること
- ・ 発表の仕方や発表の聞き方
  - ・ ノートのとり方
  - ・ 授業準備の仕方
  - ・ 整理整とんの仕方
- など
- 手順や計画に関すること
- ・ 単元(題材)の学習計画表
  - ・ 行事までの活動計画表
  - ・ 計算手順表や製作手順表
  - ・ 係活動・給食準備などの手順表
  - ・ 本時の学習の流れ
- など
- 学習の手掛かりとなるもの
- ・ かけ算九九表、新出漢字表
  - ・ 作文の書き方
  - ・ 気持ちを表すいろいろな言葉
  - ・ 公式や定理、基本文型
- など

(2) 場や時間の環境の在り方

幼児児童生徒が、不要な混乱を避けたり、必要な情報に集中して効率的に活動したりできるように、場や時間の環境を整えることが大切である。

具体的には「いつ、どこで、何を、いつまでに、どのように(どれくらい)す

るのか。終わったら次に何をするのか。」という情報を、活動の場や時間などを構造化して提供する、あるいは毎日・毎時の活動としてルーティン化するなどがある。

例えば、登校後の活動については、図3のようなルーティン化やそれぞれの活動に目的的に取り組めるような配慮が考えられる。

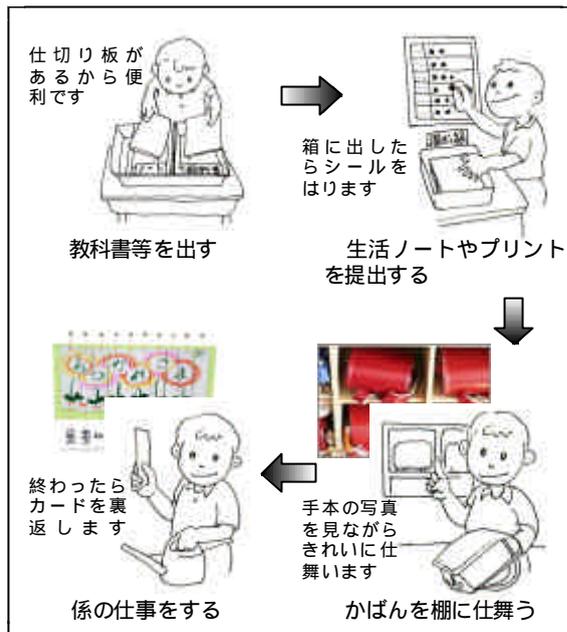


図3 活動のルーティン化と配慮

また、授業場面でも、学習活動の流れをパターン化して学習活動への一定の見通しをもたせたり、活動の時間や区切り、量を提示して目的意識をもたせ、活動ごとの自己評価や指導の確認、称賛ができるようにしたりする配慮を行うことも考えられる。

その他、場の環境づくりとして次のようなことにも配慮しておきたい。

- 場の明確化
- ・ 机上や棚の物品の置き場の設定
  - ・ 教室内の学習の場「コーナー」の設置
  - ・ 移動時の場所やルート、時間の明示
- など
- 場の適正化
- ・ 机やいすの高さや大きさ
  - ・ 場の広さや間隔
- など

#### 4 教室の環境づくりの実際

[ A教諭（霧島市立中学校）の実際 ]

国語科の授業において、A教諭は授業の流れや時間配分を毎時間板書し、生徒が見通しをもって学習を進められるように配慮している。また、学習活動は、一人一人の活動の速さに合わせて調整できるように個人学習を途中で設定するとともに、書く姿勢等の個別的な指導も行っている。

板書は、書く内容や場所を固定して構造化し(図4)、言語事項を参考にして生徒自身が本文の理解や読み取りを深められるようにするなどの取組をしている。

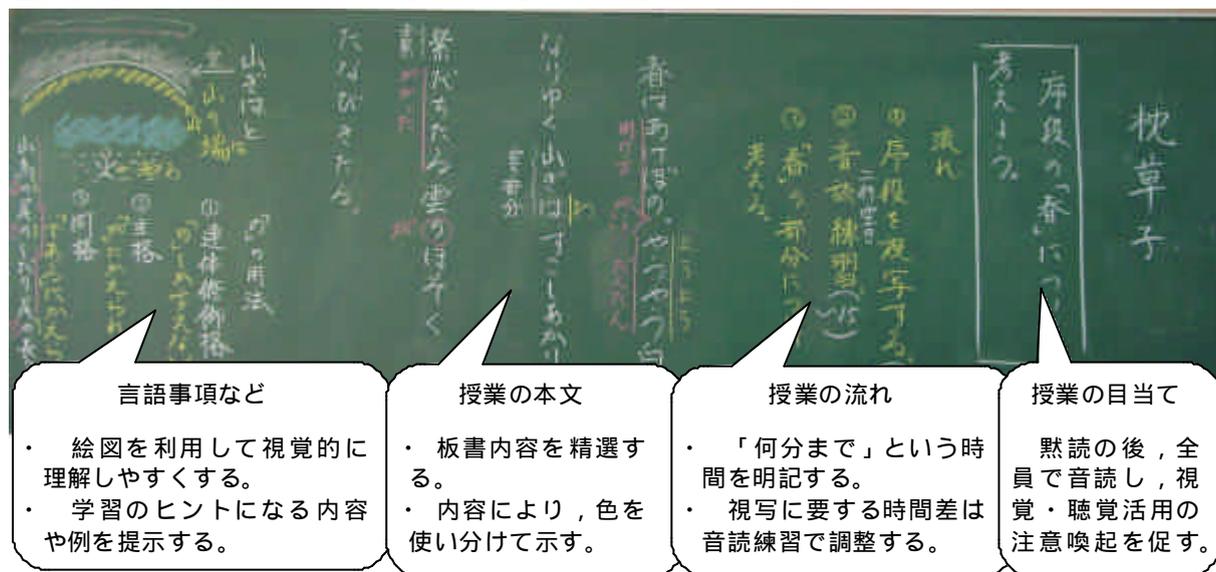


図4 A教諭の国語科の板書

[ B教諭（鹿児島市立小学校）の実際 ]

B教諭は、特別支援教育の視点から、右のことを配慮事項として授業を実践している。

具体的には、授業への取組をスムーズにするための授業開始時の問題提示(図5「チャイムでGO!!」)、教科書の図形の拡大や不要な情報を消去したワークシート(図6)の準備、ノートの書き方の具体的な提示や指導などの取組を行い、成果を上げている。



図5 チャイムでGO!



図6 拡大ワークシート

- (1) 環境を整える。
  - (2) 見通しをもたせる。
  - (3) 児童の特性に合わせた支援をする。
  - (4) 達成感、自己肯定感を味わわせる。
  - (5) 自尊感情を高める。
- ↓
- 授業の始まりをスムーズにすること。  
 学習過程をある程度パターン化すること。  
 具体物や操作活動をできるだけ取り入れること。  
 児童の解答には赤で をすること。  
 形成的な評価をすること。  
 良さを見つけたらその時点でほめること。

教室の環境づくりは、お互いの違いを認め合い、一人一人のよさを大切にしたり、支援し合ったりする関係づくり、すなわち人的環境の充実が基盤にある。その充実のためには、だれもが分かりやすいユニバーサルデザイン

の環境づくりが重要であり、丁寧で細やかな配慮を行うとともに、幼児児童生徒の発達段階に応じて、周りの人に対する理解や配慮への意識を高められるようにしていくことが必要である。

(特別支援教育研修課)